

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

2025 年度 総会・連携会議 議事録

日時：2025 年 9 月 5 日（金）13:40～15:20

場所：日本心理学会第 89 回大会 東北学院大学五橋キャンパス

参加者 公大協運営会議メンバー 個人会員 組織会員 加盟団体

1. 報告事項

昨年度の総会（2024 年 8 月）から 2025 年 9 月までの公大協の活動を報告した。

2024 年

8 月 26 日 公大協 2024 年度総会・連携会議が開催されました（録画配信）。

9 月 6 日～8 日 日本心理学会第 88 回大会（熊本城ホール）において、公大協シンポジウム「質の高い公認心理師を育てる学部教育のあり方」が開催され、動画配信されました（日本心理学会との共催）。公認心理師制度推進室から公認心理師専門官内田 舞先生に話題提供いただきました。

9 月 23 日 日本学術会議シンポジウム公開シンポジウム「心理学国家資格「公認心理師」の社会的役割と活動の実際」（パシフィコ横浜会議センター）に参加しました。

2025 年

1～2 月 一般社団法人公認心理師の会 2024 年度被害者支援研修会を後援しました。

2 月 4 日 要望書「認知行動療法の考えに基づく心理支援の診療報酬科目の新設について」を、関連団体と共同提案しました。

2 月 15 日 公大協委員会が改選されました。

3 月 31 日 2024 年度公大協年報を発行し、ホームページで公表しました。巻頭言：竹之内秀吉氏（厚生労働省 障害保健福祉部 精神・障害保健課 公認心理師制度推進室長）。公認心理師制度推進室に提出しました。

4 月 11 日 厚生労働省公認心理師制度推進室室長が公大協事務局（日本心理学会事務局）を訪問しました。公大協の運営会議メンバー、公認心理師の会理事会メンバーがオンラインであいさつしました。

4 月 24 日 公大協の委員による会長選挙がおこなわれました

5 月 令和 7 年度公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会（国立精神・神経医療研究センター病院）に公大協が協力しました（企画委員会および講習会講師として参加）。

5 月 24 日 一般社団法人 公認心理師の会 年次総会（東京大学駒場キャンパス）で公大協共催シンポジウム「心理実習・心理実践実習の工夫」が開催されました。一般社団法人 公認心理師の会学術雑誌科学者-実践家モデル第 5 巻に収録。

5 月 28 日 2023 年度公大協運営会議と日本心理学会資格制度調整委員会が開かれ、新年度の役員・委員会が発足しました。

5 月～6 月 区分 A 受験の公認心理師の現場におけるスキル達成度調査をおこないました。

6 月 厚生労働省 令和 7 年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の役割と養成の在り方等に関する調査研究」（浜銀総合研究所）における検討委員とワーキンググループに協力しました。

7 月 30 日 要望書「認知行動療法の考えに基づく心理支援の診療報酬科目の新設について」の最新版を関連団体と共同提案しました。

8 月 20 日 「公認心理師になる：学びのプロセスと仕事の実際がよくわかる本」が日本心理学会「心理学叢書」として刊行されました（誠信書房）。公大協の 4 つの委員会が執筆しました。

9 月 5 日 日本心理学会第 89 回大会（東北学院大学五橋キャンパス）において、総会・連携会議を開催しました。5 年振りの対面開催となりました。

9 月 5 日 日本心理学会第 89 回大会において、公大協シンポジウム「公認心理師養成における実習・演習の工夫」（現場実習検討委員会）を開催しました。



9月5日 日本心理学会第89回大会において、チュートリアル・ワークショップ「心理職養成のための実習演習指導：体験学習サイクルによる指導方法」を開催しました（講師：古川事務局長）。

2. 今後の活動予定

2025年

9月 国民のための公認心理師制度を推進する議員連盟 総会に参加予定

2026年

3月31日 2025年度公大協年報を発行し、ホームページで公表予定。区分A修了者評価調査の結果を公表し、公認心理師制度推進室に提言予定

5月12日 一般社団法人 公認心理師の会 年次総会（東京大学駒場キャンパス）で公大協共催シンポジウムを開催予定

9月 公大協運営会議および日本心理学会資格制度調整委員会を開催予定

9月4～6日 日本心理学会第90回大会（東洋大学白山キャンパス）において、総会・連携会議の開催予定、公大協シンポジウム開催予定、チュートリアルワークショップ開催予定。

3. 委員会報告

昨年度の総会（2024年8月）から現在までの各委員会の活動は次のとおりである。

1) 学部カリキュラム検討委員会

今後の計画

学部でのコンピテンシー教育の現状と在り方について検討を行う

⇒実践のための知識がどのように教えられているのか・教えるべきなのか

- ・基礎心理学科目群＋卒論で、現状どのようなコンピテンシーが身につくのか
- ・基礎心理学が実践に活かされるためにはどうすればよいのか

現状のカリキュラムで足りないもの・追加で教えるべきものはないか

応用を視野に入れて基礎心理学の知識を教授する姿勢・意識は浸透しているか(教員側)

応用を視野に入れて基礎心理学の知識を学ぶ姿勢・意識は浸透しているか(学生側)

←学部教育を担当している教員・学生・修了生などを対象にアンケート・実態調査が必要

年度内：委員会内でアンケート・調査内容の検討(メール審議、必要ならオンライン会議)

可能であれば年度内にアンケート実施まで

2) 大学院カリキュラム検討委員会

a) 今年度の報告

今年度は、公大協のコアカリキュラム案の見直しを進めるとともに、「科学者-実践家モデル」をカリキュラムでどのように実現させるかについて検討を行っている。

b) 今後の計画

科学者-実践家モデルの重要性を訴えながら、公認心理師の職務や必要なコンピテンス、到達目標に研究の重要性（研究知見の応用を含め）を主張していくための方略について検討する。

さらに、心理学の学術的発展や臨床研究の活性化、さらには研究者養成や実習指導者育成における博士後期課程の位置づけについても、継続して議論を進める予定である。

3) 現場実習検討委員会

a) 今年度の報告

公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会

企画委員会および講習会講師・副担当を選出した。委員・講師は古川、副担当は尾形先生と瀧井先生が担当することとなった。

日本心理学会第89回大会の企画・運営

シンポジウム「公認心理師養成における実習・演習の工夫」

企画代表者：古川洋和 公認心理師養成大学教員連絡協議会

企画・司会：丹野義彦

話題提供

1)内田 舞（厚生労働省公認心理師制度推進室）

公認心理師制度の現状

- | |
|--|
| 2)有光 興記（関西学院大学）
心理演習の工夫
3)瀧井 美緒（新潟大学）
実習演習担当教員及び実習指導者講習会に参加して
4)古川 洋和（鳴門教育大学）
実習演習の課題と公認心理師養成大学教員連絡協議会のこれから |
|--|

日本心理学会第 89 回大会の企画・運営 チュートリアルワークショップ「公認心理師養成における実習・演習の工夫」 企画・講師：古川 洋和（鳴門教育大学） 公大協初めてのワークショップです。来年以降も開催予定です。

b) 今後の計画

1. 公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会への意見集約

主に、大学教員が学内外施設で実習指導を行う際には、担当教員コース＋指導者コースの両方を別々に修了する必要があることの問題について意見を提出する。

2. 実習演習ガイドライン（案）骨子の作成

3. 実習・演習の工夫に関する情報共有（将来的には公大協ウェブサイトへ掲載）

4) 国家試験検討委員会

a) 今年度の報告

2024 年度に実施し年報でも報告した生成 AI を用いた公認心理師試験問題の検討について報告した。

b) 今後の計画

第 8 回公認心理師試験においては合格率が下がっており、問題の難化傾向も指摘されている。本年度も生成 AI なども活用しつつ、公認心理師試験問題について検討を行う予定である。

5) 編集委員会

a) 今年度の報告

2024 年度の年報を本年 3 月 31 日付で発行した。

b) 今後の計画

本年度も例年同様のスケジュールで発行を予定。

具体的には、10 月末頃、各委員会の正副委員長に執筆のお願いを出す。

原稿の締切も例年通り、1 月 20 日とする。編集委員会できりまとめた後、原稿のチェックをお願いする。

6) 広報委員会

a) 今年度の報告

5 月末より、一部の委員の先生には引き続き広報委員をお願いし、委員長も含め委員の多くを新たに 12 名で 2025 年度の活動をスタートした。新たなメンバーに加わっていただいた方々は、SNS などオンライン上のネットワークを多数有している、あるいはオンラインでの広報活動に詳しい方々である。

b) 今後の計画

1. 公大協ロゴの選定作業

2. 公大協メールマガジンの発行と、そこで「日本心理学会心理学叢書 公認心理師になる」も紹介

3. リレーエッセイ（例、公認心理師について）の作成を検討

4. 区分 A 受験の公認心理師の現場におけるスキル達成度調査の報告

伊藤大輔委員（大学院カリキュラム検討委員会副委員長）から調査結果の概略が報告された。

調査目的

区分 A（2024 年 3 月か、2025 年 3 月の公認心理師試験）で受験した公認心理師の養成が適正に行われているかどうかを検討するために、そのスキルの達成度を調べ、対応を検討すること。

調査方法

公大協は下記のワーキンググループを立ち上げ、2025 年 5 月 29 日～6 月 20 日に web 上で調査を実施した。

学部カリキュラム検討委員会 岩原昭彦・丹野義彦

調査項目

厚生労働省令和4年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の多様な活躍につながる人材育成の在り方に資する調査」の報告書（浜銀研究所）において作成された「就職後5年目の段階」の小項目30項目を忠実に質問項目とした。

調査対象

勤務先において、区分A（2024年3月か、2025年3月の公認心理師試験）で受験した公認心理師が働いておられる方を対象とした。

調査結果の概略

勤務先で、区分Aで受験した公認心理師が働いておられる方30名が回答していただいた。

調査の結果、公認心理師の養成において当初重視されてきた到達目標はおおむね上位に来ている。8「組織文化や多職種の尊重」、5「カウンセリングの基礎的態度」、3「反省的实践」、10「知識のアップデートと説明責任（エビデンスにもとづいた実践）」、26「多職種チームへの貢献」、1「公認心理師の職責と倫理の理解」などであった。養成において重視されてきたスキルはおおむね達成されていると言える。

下位に来ている項目は、職場によっては新入の職員が担う業務とされていないために下位になった可能性がある。

なお、調査結果の詳細は今年度の年報で報告される予定である。

5. 『公認心理師になる』の刊行の報告

2025年8月に日本心理学会の心理学叢書として、『公認心理師になる：学びのプロセスと仕事の実際がよくわかる本』（誠信書房）が刊行されたことが報告された。

本書は、科学者－実践家モデルの理念を共有する公大協と公認心理師の会が共同して完成したものである。公認心理師になるために学ぶべきことは何か、実際にどのような仕事をし、どのような技能が求められるのか、全体像をわかりやすく解説した入門書であり、中高生やその保護者、養成課程の学生、現職の公認心理師、養成に携わる教員まで幅広く役立つように作られている。

本書の第Ⅱ部は、公大協の各委員会が担当し、大学・大学院における学びや実習を具体的に解説した。

また、第Ⅲ部は、公認心理師の会の5部会・委員会が担当し、医療、福祉、教育、司法、産業の各分野の実際を紹介した。

つまり、養成団体の公大協と、職能団体の公認心理師の会が、車の両輪のように連携し、総勢26名が総力をあけて編集・刊行したものである。周囲の方々へ周知いただきたい。



6. 会員・加盟団体の先生方へのお願い

1) カリキュラム等検討会に向けた活動

開催時期が未定だったカリキュラム検討会（カリキュラムの見直しに係る有識者会議）が近々開催される可能性がある。それに向けて、厚生労働省は令和7年度障害者総合福祉事業において「公認心理師の役割と養成の在り方等に関する調査研究」（事業担当者：浜銀総合研究所）を実施予定である。その検討委員として公大協から鈴木伸一先生、ワーキンググループとして公大協から古川洋和先生、日本心理学会から古村 健先生を推薦した。

調査が実施されれば養成機関や実習担当者に対してヒアリング調査やアンケート調査への回答依頼があるので、協力をお願いしたい。その際には、公大協が作成した「公認心理師教育コアカリキュラ

ム案」などを参照いただけるとありがたい。

また、公大協として、養成カリキュラムの課題や改善が必要な事柄について意見を集約したい。今回おこなった「区分A受験の公認心理師の現場におけるスキル達成度調査」もその一環である。今後、さらに公大協としてアンケートをおこなう可能性があるので、その際は協力をお願いしたい。

2) 公認心理師養成の現状・工夫を共有し、会員を増やすために

今年から総会・連携会議は対面開催を復活させたが、今後、横のつながりができるような機会を持ちたい。その際は、ご所属機関・お知り合いの先生などをお誘いいただきたい。

また、公大協の今後の活動に関するアンケートをおこないたいので、ご忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。

3) 準拠テキスト・著書等の紹介・広報

公大協は、下記の項目に準拠したテキストやご著書は、公大協として推薦し、広報しているので情報をお寄せいただきたい。

- a. 日本心理学会・公大協 「公認心理師カリキュラム標準シラバス」 大学・大学院
- b. 公大協 「公認心理師養成コアカリキュラム案」
- c. 公大協 「現場実習（心理実践実習）手引き」